① 昭和３５年３月３０日（水曜日） 飯田市 龍丘版 第９１号

飯田市

発行所
飯田市竜丘公民館
編集人
竜丘公民館編集部
印刷所
信州印刷ＫＫ
松本市市上町３５３

誠実を以って農家と共に歩む店
肥料・飼料
農薬
丸西産業
株式会社
TEL 85.1975
有線松尾48の11

今年の方針

愛される公民館に

—地味な活動から—

公民館では明るく住みよい社会を建設しようとの目標のもとに、いろいろな事業が行われ努力を重ねて来たがこの最も基礎となるもの——つまり活動の多くが地域住民の全般に浸透し、理解の上に立って行われたか、又住民の中からもり上った自主性のある活動がどんな形で行われたかを話し合った、その中から公民館は現実をみつめ、とぼしい予算と施設の備わない現状にあって、どうしたらほんとうの地についた活動が出来るかを過去の反省に立って真剣に検討を続けて来た、そこで公民館の今年の基本方針を次のところにおき地味な活動ではあるが根を深く下ろし、愛される公民館活動を行おうと出発した。

基本方針

イ、分館を単独分館として考えないで全地区的な立場から分館活動を推進する

（分館活動を分館独自のものと云う考えでなく、適当な事業には必要に応じ、本館も加わり全地区あげて参加援助し、部落分館の進歩と同時に全住民の向上を計りたい）

ロ、小集団活動を地域グループ活動の方向にしぼり活動の重点的推進母体につとめる。

（全部落が一堂に会する事のみを考えないで、地域、組合、分館毎の小さな集りから出発することが大切であり、こうした活動が円滑に行われるよう努力する。）

ハ、既成団体にあっては出来るだけ援助し、自主的な団体には精神的なつながりを深めて行く。

（小グループの活動を出来るだけ援助し、団体の独自性を生かして行く。自主的な団体にはいたずらに補助金を出すのでなく、それぞれの事業を通して精神的なつながりを密にし、互に援助、協力し合って共同の力で団体活動を行う）

ニ、分館活動の活発化と自発的な意慾を起すためにみんなが楽しく参加出来るような事業企画を考慮する。

（現在までの分館活動は、ともすれば消極的であり、又結果的に一部の人達のみを対照とした教育的な事業が多い傾向があった。

今後は、部落民全部が参加できる様な事業を行う。）

◇ ◇ ◇

事業計画

こうした基本方針に基いて事業の大要を決め、逐次部員会を開催して細部を検討している。

▽教養部
講演会、婦人青年問題研修会、青年学級、婦人学級、囲碁将棋大会、冬夏期講座。

▽社会部
新生活運動の推進（小集団話し合い活動を中心とする）、敬老会、老人学級の援助、市政を聞く会、公明選挙の推進。

▽産業部
農政問題研究会、先進地視察。

▽体育部
分館対抗卓球大会、野球大会、婦人のバレー大会、年令別野球大会、常会対抗野球大会、市民運動会、四月中旬からラジオ体操の全戸実施啓蒙運動、その他社会体育の末端普及を少しづつ行うように努力する。

▽視聴覚部
公民館巡廻映画、学級映画有効利用、映画鑑賞を通して話し合い学習を進める。

▽編集部
公民館報の発行、有線放送利用による放送活動、調査活動を行い今後の活動の参考資料を集しゅうする。

論説

農村を変えるもの

一、

桜の花と共に万物が冬眠から覚め、いよ〳〵活動の季節を迎えた。こんな時陽焼けし乍らも働く喜びを感じざるを得ない。

しかしじっくり農業の姿を考えてみる時そこには一抹の淋しさがある。政府の打出す貿易の自由化、他産業に比べた農業の地位等々。確かに曲り角に直面した感じを強める。

何とかしなくてはならない。一時暴落した糸価も神武景気とか岩戸景気とかのあおりを喰ってか高価が予想される今日養蚕郷竜丘の力となっているが、この状態もそう長くは続かないであろう。とすると私達はもっと〳〵新しい時代に即応した安定性のある農業なり、生活を築き上げる必要があるはずだ。

二、

ところが既成された今の農村社会から新しい社会を創り出すためには、それ相当の計画と努力がいる。そこには政治もあり、経済もある以上一人〳〵で出来るものではない。よき指導者も大切な要素であるが、中堅になるものがなくてはならない。それは何と云っても次の世代に生きる青年の他何者でもなかろう。

しかしその青年層の人達が余りにも無関心に等しいことは何としたことか。竜丘ばかりではないだろうが不安でならない。

地区内の青年の動きをみても自分達の生活とは若干焦点を異にしているような気がする。喰えなければ土方に出ると云う考え方もあるだろうが、生産と消費から経済が成り立つ以上、生産を考え、消費を考え人間的な生活のできることを考えなければ農村へ嫁のきてがなくなってしまうばかりか時代の遺物と化すだろう。

三、

と云って何々会とか、何々団と云う組織を強化することを考えるのでなく青年層の質を変えることから始めるには、もっと小さな部落のグループで生活や生産の話し合いをやることではないだろうか。きっとそこには生活のロスを発見し政治の矛盾を感じ、組織を動かす原動力が養われると思われる。自分の経営が分析され、地区の現状が分析される時始めて団結の意識が高められ、共同化や法人化の学習が芽をふき総合的な力となって農村を変えよう。

若い力が現在の農村に学習から積みあげた積極的な上向の方向となって踊り出るならば、農協役員の改選についても豊飯国道問題についても将来に悔のない解決をするために青年の努力がはらわれることだろう。そうして農業の近代化に合せて工業化への途を開く結果にもなるかも知れない。

青年が自から開くそうしたエネルギーに対して親はむろん私達みんなで愛の手をさしのべ協力することを惜んではならない。一方市当局でも田園都市飯田の名にかけて社会教育を充実し、教育費を捻出する現在の形から一刻も早く脱皮したいものだ。

質問状

自治協議会に対する声が三通出たので、編集部ではこゝにまとめ自治協議会へ質問状を出した。

われ〳〵の代表であり代弁者であると思われる自治協議会の在り方及び運営の方法について地区内で色々なおくそくが流れています。と云うのも自治協議会を本当に理解している人は少ないと思うし、協議会の方でも理解を促すような努力がなされていないと云うところに問題があると思うのです。

このような状態では遺憾と考えますので、左にかゝげる点について明細な御解答をお願いします。

一、自治協議会の目的及び構成について
二、自治協議会の運営について、事業及び予算について
三、地区民の世論をどのようにしているのか。
四、合併前の村財政について（例、発電所及び村有地の売却について）

解答

自治協議会の現状

一、自治協議会は町村合併によって自治体が大きくなり、地区民の「よりどころ」が無くなるような又遠くなるようなことになったので、地区内の自治行政上自主的に各地区に設けられたものであります。

構成
地区出身市議々員 三名
地区財産区議会議員一六名
区長 五名
計 二三名

二、1、事業

南原橋架替工事推進、豊飯国道、飯田県線中村〜時又線改修促進、飯田〜鼎〜時又線の開設、新上水道計画の実現陳情、工場、住宅の誘致等については地元の熱意が市及び県当局へ反映しなければ実現が出来ないし、又地元負担金がこれに附随しているのでこの心配をしなくてはならない。

駐在所のバイクも各村、市内各地区で購入し非常の場合に備えている。

防消団では上川路で一昨年鉄骨の警鐘楼に立替えられたがこの地元負担も出費している。今後防火用貯水地が増設の場合、消防車の新車に切替えられる場合についても水防倉庫を建設する場合についても地元負担金を心配しなくてはならない。

中学校の就職補導費としては教育費には計上されていないので、緑ケ丘へ統合されても就職開拓、試験出張、事業所へ出張される先生には旅費が出ない、これを該当家庭へ望むことは好ましくないことで、今後も出費を予定している。村史編纂費も市の財政が重点施策上この面には薄くなって来ており、郷土史の充実を計るために出費するよう計画している。

飯田市防火防犯委員会への負担金が地区へ割当になりこれを各戸へ割当納入願うのが建前であるが、協議費を納入願っているのでこの中から出費している。この金は竜丘地区の防火防犯委員会へ増額割戻しになって来たので、今年は防犯燈を付けることを計画し、各区より設置箇所の申請を出して貰い逐次実現の見込です。

尚この外地区民はもとより市民福祉増進のため市議に対しても要望し活躍を願っている。

2、予算

収入

一、協議費	一一六、一七一円
一、補助金	一一五、〇〇〇円
一、繰越金	一八、八二九円
合計	二五〇、〇〇〇円

支出

一、事務費	三八、六〇〇円
旅費	三、六〇〇円
消耗品費 （駐在所オートバイ油代）	五、〇〇〇円
食糧費 （自治協議会のみでなく事業の推進上必要なものを含む）	三〇、〇〇〇円
一、諸支出金	二〇五、〇〇〇円
国道委員会	一〇〇、〇〇〇円
バイク代	二〇、〇〇〇円
就職補導費	一五、〇〇〇円
防火防犯委員会負担金	一五、〇〇〇円
村史編纂費	五〇、〇〇〇円
その他	五、〇〇〇円
一、予備費	六、四〇〇円

三、事業の面で掲げた通り公共的な事業のために努力しており区長の意見も充分に聴き入れ、区長を通じてP・Rしている。

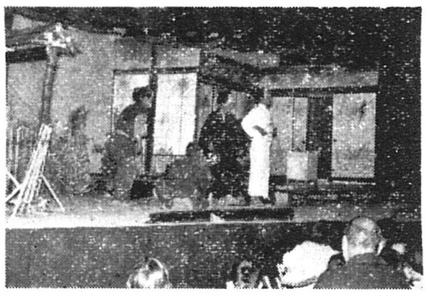
四、旧久米川、新川発電所の処分についてお尋ねのようですが、一件話の解決が付かないため発表出来ないが、収入、支出、差引で余剰金が出来ると思うが話の解決前の発表は差控えたいと思う。但し解決次第詳細を御知らせします。

龍丘演劇サークル

発表会に表彰される

竜丘演劇サークル（青年）は去る三月二十七日、飯田市中央公民館で開かれた第十一回青年演劇祭に郡市出演五団体の中に入って、大勢の観賞者の前で熱演し、見事表彰の栄を得た、発表会終了後約二時間にわたり研究会を行った。出演した団体は

▽はだしの青春＝竜江公民館演劇研究会みすゞ▽さっぱ役ばなし＝河野演劇同好会▽地獄＝鹿塩演劇研究サークル▽なだれ＝伊賀良上殿岡青年会▽ぼろの歌＝竜丘演劇サークルであった。



＝ぼろの歌の一場面＝

万寿山公園に

バレーコート

桐林万寿山公園に今度バレーコートが出来上り、シーズンを迎え多くの人達が来るものと地元では期待している。これは桐林共和会が中心となって、万寿山をなんとかりっぱな公園に育ててゆきたいと云うことから、年度頭初より計画され各方面に働きかけて来たもので、万寿山の中腹に七万円の予算で労力を会員が二日宛出て整地作業を行い、ポール、ネットは市教育委員会から、金網は観光課からそれぞれ作られたものです。

短信

△山本

○城山公園化

飯田市周辺の史跡景勝地めぐりの遊覧バスが起案され、新興公園地として山本地区の城山が有望視されている。立体的な史跡景勝地としては申し分のない場所で、下伊那一円を眼下に見下せる場所は神の峰と双璧をなす標高七四〇米のすこぶる有望な地として、市民の期待をになっている。

△松尾

○青年演劇と改善結婚式

三月五日に松尾青年会では地区内の青年演劇発表会を開催した又三月十三日には会費制の公民館改善結婚式が行われた。松尾ではこれが第二回目である。

○婦人体験発表会に入賞

去る二月十二日に上郷農協で開かれた、下伊那農協婦人体験発表大会に、明星会（三〇才から四〇才までの農家の主婦のグループ）の共同研究〝グループの歩みから我家の食生活改善へ〟を発表した。その結果二等第一席に入賞した。

△龍丘

○石室・土器等を発見

農道新設中の桐林殿垣外地籍から去る二月下旬に石室、土器等が出て関係者をびっくりさせた。

詳しくは、殿垣外第一号墳と呼ばれるもので、明治の初期に発掘され、石室の上層は取りはらわれ、封土も僅か〇・八〜一米程度であったので、殆ど塚と知らないで掘り進んだところ、石室の側壁、敷石はそのまゝ残っており、未採取の土師器、須恵器（吸ツボ、瓶類）鉄片、銀環が出土した。

○改善結婚式

今年になって二つの会費制の改善結婚式があり、市役所支所と部落公民館とでそれぞれ行なわれた。公民館をはじめ婦人会、青年会ではこれを契機にと分館毎の話し合いや、婦人会の研究会のテーマに取り上げるなどだれでも出来る結婚式をとはりきっている。

△伊賀良

○研修会行われる

三月四日、午後一時より、伊賀良支所に於いて、公民館社会部主催による「話合い研修会」が行われた。参加範囲は各団体と公民館を網らした全域で五分科会に分かれ婚儀改善について、その実践方法当面する農協役員の選挙についての心構えについて研修した。前者については、改善即公営の式場設置を、後者は人にまどわされない個人の確立が先ず第一であると結ばれている。

▼桜の花もほころびかけて来た。百姓の研修の季節も過ぎようとしている。今冬の当地区のストーブリーグの話題をやぶかでちょっと▼新しい形の結婚式が二つ行なわれた。憲法に「結婚は両性の合意のみによって…」と規定されている旧来のまゝでは憲法は只の空文にすぎず、遠い先の事としか思えない。だが我々の希いである「家」ではなく、「個人」が中心となって進められてこそかなうことだ。ある団体での研修会での批判も現実だけに囚われていた。考え方の基点を憲法の精神に求めるならば、理解できることだ。「農村の封建性打破は恋愛結婚から」とある作家が云ったが、昨今この地区の段階として「婚儀改善から」と叫び度い。▼財産区の事業報告書なるものを拝見した。三十四年度の決算はしたのだろうか。立木売上、四九万位とか、おかしな報告をしたものだ。一体あれは何ですか。早急に明確な決算書を地区民に明示願い度い。あいまいな事をすれば、どうしたのかと疑わずにはいられない。これでは財産の管理どころではない。自治協議費の徴集率も悪くなる筈だ。▼農協の支所の縮少は「縮少ではなくて合理化だ」と執行部は云う。組合員は縮少だときめつける。どうも組合員と役員の間がへだたれているようだ。そういえば、三月役員改選が行なわれた。選出方法は相変らず部落推選制＋タライマワシ式だ。まるで組合などどうなってもよいというお義理的選出だ。農協が発展するか否かは、組合員個々の自覚によるものだ。本気になっていい役員を選んでもらい度い。選出方法を改正すべきだ。▼その他国道の問題、中学校の通学問題など話題は豊富だった。ほんとにボヤボヤしていられない。地区行政から国政まで一層関心を深め、個々が政治意識に目覚め、下からの盛り上がりで施政者を動かす程の政治への働きかけが出来るよう百姓仕事の合間にも勉強。そうしてこそ、始めて農民の団結も可能ではなかろうか。ハチマキを締め直す時期だ。

特集

◇…龍丘中学校は昭和二三年四月一日に発足した。終戦直後のすさんだ世相の中で…◇
◇…いち早くとりあげられ、行われて来た六・三・三の学制によって行われたもの…◇
◇…であり、以後一三年の歳月が流れて、社会はめまぐるしいばかりの変転を刻し…◇
◇…て過ぎて行く中で、町村合併によって生じた中学校統合問題が大きく抬頭し、…◇
◇…迂余曲折、統合中学緑ケ丘中学校の発足を待つばかりにして龍丘中学校は一三…◇
◇…年の年月を龍丘の地に大きな足跡を記して閉校されたのである。開校以来一三…◇
◇…年千五百名の卒業生を送り出した龍丘中学校を特集して消えていく母校を……◇

（編集部）

さらば!! 母校竜丘中学校

卒業生延一五、〇〇名

十三年間の灯消える

開校の頃

昭和二三年四月より六・三・三学制の実施に伴い竜丘国民学校初等科は竜丘小学校に、高等科は竜丘中学校と云う名称で発足したのが昭和二三年四月一日。開校式は同年四月八日に行われ、竜丘中学校が生れたのである。

開校時の初代校長には木下右治校長（現飯田市立図書館主事）があたり、教員数一一名、男生徒一四二名、女生徒一四二名、計二八四名と云う内容で、学級数は八学級であった。

歴代学校長

竜丘中学校は一三年間のうちに、四名の校長と二名の部長とが在職した。

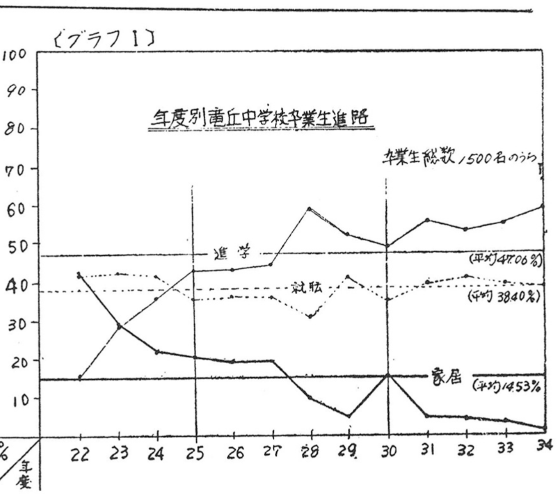
初代校長	木下　右治
第二代校長	竹上　清人
第三代校長	茂木　住平
第四代校長	羽場　敬喜
第一代部長	塩沢　正人
第二代部長	今村　正次

又竜丘中学校にあって教鞭をとられた先生は、校長、部長を含めて、六四名の多きにおよんでいる。

卒業生の進路

第一回卒業生の七三名を振り出しに、一三回までの卒業生は一、五〇〇名を数え（表I参照）その進路は（グラフI参照）毎年異る数を示し、それは新制中学の学制がとられてこのかた一三年間の社会の移り変りを如実に物語っている。ちなみにグラフをみるとき、二二年度卒業生七三名のうち進学が一五%、就職が四二・四%、家居が四二・六%であったものが、七年間経った二八年では進学五九・四%、家居一〇%と大きな差が生れて来たことが注目され、それからは、進学が年々増加する傾向にあるのに反し家居は年々下向するのが目につく。就職の場合は平均の三八・四%のラインを上下していることは、竜丘の経済問題をどの様に現しているのであろうか。

〔グラフI〕



年度別卒業生とその動向表【I】

同年	数度	卒業生数	進学	就職	家居
1	22	73	11	31	31
2	23	96	27	42	27
3	24	107	39	44	24
4	25	135	59	49	27
5	26	130	56	49	25
6	27	124	55	45	24
7	28	111	66	34	11
8	29	129	68	53	8
9	30	120	59	42	19
10	31	117	65	46	6
11	32	117	63	47	7
12	33	118	65	47	6
13	34	123	73	47	3
計		1500	706	576	218

父兄会からPTAへ

開校当初父兄会と呼ばれていたのが、両親と先生との会（ペアレンツ・ティーチャーズ・アソシェーション）即ちアメリカさん流にPTAとなったのはいつの頃か、DDTとPTAと混同した笑えない話しの残ったのもその頃である。22年度父兄会長林省三、23年度林省三、24年度岡島康治、25年度前島秀夫、26年度前島秀夫、27年度橋本玄進、28年度橋本玄進、29年度伊原春男、30年度今村恵一、31年度下平貞雄、32年度高木関、33年度北原公祐、34年度塚平睦雄の各氏がその任に当り、学校教育とPTAとはます〱強い結合を持つものに成長して来た。

校友会

開校当初自治会と呼ばれた生徒の会は、二四年の頃から校友会に改められ、生徒の学校生活を規律あるものにして来た。歴代生徒会長は22年度伊原靖郎、23年久保田仁司、24年久保田仁司、25年下平威彦、26年高島三郎、27年下平洋雄、28年木下広志、29年伊原徹、30年下平昌兵、31年斉藤光昭、32年中島捷、33年漆戸鮮二、34年増田俊和が当り輝かしい伝統と規律ある校風を培って来た。

閉校のとき

厳密に云えば、竜丘中学校は昭和三二年度で終り、三三年度は緑ケ丘中学校竜丘部校となったのであるが、竜丘に生徒の通っていた一三年間の竜丘部校はやはり竜丘中学校と考えたい。昭和三四年三月二〇日閉校式が行われた時、母校竜丘中学校の灯が消えたのである。

最終卒業生の動向

進学率五九・三%　家居全体で男子三名

龍丘の将来は一体どうなるか

昭和三四年度卒業生は、緑ケ丘中学校第一回卒業生であり、竜丘中学校通算第一三回の卒業生にあたり、男子七五名、女子四八名、計一二三名であった。今春卒業した生徒は終戦間際に生れた子供であり新しい時代に教育をうけて来た生ッ粋の卒業生と云うことがいえよう。一二三名の卒業時における進路をみると（グラフII参照）、進学五九・三%、就職三八・二%家居二・五%となり開校の頃と比べるとその大きな差異はおどろくものがある。

進学の高校別をみると

	男	女	計
飯田高校	8	3	11
風越高校	0	11	11
長姫高校	6	0	6
下伊農高	8	2	10
阿南高校	2	1	3
飯田女子高校	0	11	11
飯田工業高校	5	0	5
天竜高校	6	2	8

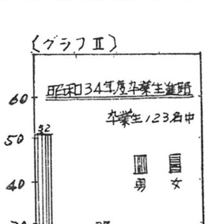
となっている。就職者四七名は

	男	女	計
東京方面	10	2	12
中京方面	4	17	21
県内	6	8	14

となっている。又家居は男子のみ三名となっているが、こうして進学率が高くなって行くことは喜ばしいことであるが、進学した生徒の何%竜丘の農村を背負って行くべく竜丘に帰って来ることか、進学率の高いのを手放しで喜んでいて良いものだろうか。誰れかゞ竜丘を背負って行かなければならない。今春の卒業生の動向をみて地区民はどう考えるだろうか。

（S・Y）

〔グラフII〕



作品

亡友をしのぶ

二ノ一　小林伊那子

彼が亡くなってらかもう何十日経っているかわからない。彼がどんな気持で死んで行ったか誰れ一人わからない。誰れにも愛されない孤独だった彼がどうして、そんな事に踏切ってしまったのだろう。

彼の死を知らされた時、組中の人達の顔がさっと曇った事はだれにも想像出来た事でしょう。

私はその時心がさけるばかりにおどろいてしまった。

死の二、三日前に女生徒の布団に砂をまいたりした、元気な顔はもう見たくとも見られない。

毎朝家の姉と登校の時行き合うと、帽子を取って、ていねいに頭を下げてくれたと姉は喜んでいたのになぜか私は、彼の死を招いたのは私達のような気がしてならない。よく日本人は、熱中しやすく又うすれ易いと云うが、もう私達の組の人達は大部分が忘れているようだが。私は毎日彼の事を忘れた事はない。

彼が来た時に皆は「はい」というかわりに頭を下げておいたくせに、勉強が終っても誰一人として暖い言葉をかけてやらなかった。

彼は、生前猫が死んだ時、「僕は猫に変って死んでやりたかった」と、語っていた。彼の死によって教えられた教訓を再びかえさない為に、私達は心から話し合わなければならない。

彼は、皆の送ってやった電車で故郷へ帰っていった。彼は安らかに昇天していった事だろう。

誰でも良いから、電車の通る所のあの花立に花を絶やさずさしてやってほしいものだ。

これが、私達が彼の死去した後のしてやれる事なのである。

もう一、二度でいいから、あのくりくりした目、澄んだ目を見たい。（校友会誌第一〇号より）

小川

二ノ一　宮内房子

川はいつも
止らず流れている
小川は自分の行きたい所
流れたい所を
自分で作って流れて行く。
小川でもこれほど強い。
人間は小川にくらべれば
なんと小っぽけなものだろう
小川にはいつも
じゃまものがある。
でもくじけず
まっすぐ流れて行く。
人間は何か
じゃまがいるとすぐくじける
それにくらべて
何と清く強いのだろう。

畑耕し

一ノ三　下平犬次

僕と母と、今日も畑耕し
びっちゅうを持って
長ぐつをはいて、
畑へ〱と行った。
まだ日が当らない
こち〱だ。
息をはけば
白くみえる。
びっちゅうをふりあげる
力いっぱい
土にくすげる
大きな周りが
ゴロ〱起る。
気持が良い。
母も僕も
一生懸命。

緑ケ丘

待望久しかった登校

四月より　全員が徒歩通学と決る

緑ケ丘中学は第一期工事が完了し、本館三階建校舎が使用可能となり、三五年四月より登校し、待望の授業が行われることになった年度はじめにおける生徒数は

	男	女	計
一年	207	228	435
二年	187	187	374
三年	137	155	292
計			1101

となっており、一年九級二年八級三年六級計二三学級となり、一学級四七、八名平均となる。職員数は三九名である。

統合に伴う様々の問題があるが竜丘の旧校舎がどうなるかについては、本館と記念館は現状のまゝ残し、南館のみを公売に付すことが市議会で決定されている。又余剰職員の問題があったが、緑ケ丘全体で五名の先生が転出された。そして生徒よりむしろ父兄の方に大きな関心があった通学の問題は様々の問題はあるが最終的には徒歩通学と云うことに決り、今後考慮される問題は通学道路の改修と他地区遠距離生徒の通学などが抬頭して来るのではないか。

こうして教育の成果は飛躍して良くなって行き、生徒自身は高度な教育をうけられる反面、父兄に又地区民にかゝる今後の負担と云う問題を考えなくてはならない。

【写真は四月より生徒の入る三階建の本館】

中学校略史四月下旬に発行

竜丘中学校が閉校になるのだから、何か記念になるものを残したいという要望もあり、「竜丘中学校略史」が刊行されることになった。内容は一三年間の学校内の主なる歴史に加えて、歴代生徒会長の想い出や、在職した職員録と、卒業生一、五〇〇名の住所録など採録してある。この歴史は四月下旬発行されるが、希望者は、四月一〇日までに公民館河井主事まで申込むこと。価格は一部二五円と予定されている。

人物伝 4

村長のマキ

四代目村長
小林　勘一郎

（父）勘兵衛母志満の間に長男として、弘化三年（一八四六年）長野原たまり屋に生れた。幼時の詳しい記録は余りないが、十五、六才の頃上飯田白山に於て、七日間断食の座禅修行などをした。

明治二十二年四月村会議員に当選し同三十四年四月まで在任その間三十二年十月より三十四年五月まで村長の職にあった。また外に区会議員をも勤めていた。

（公）私ともに、万事「無駄」の嫌いな風が強く他人に真似の出来ない言行で村内の人望を終生集めた。明治三十六年三月小学校焼失の時、誰よりも先に駆けつけ、ひとり焼跡の整理にあたっていた、という逸話が残っている。風雨水害のあとには、公共物の後片付けや修理に骨身おしまる姿がかならずどこかで見られた。長野原という地域に住む故もあってか、伊賀良井に対する関心は異常なほどで、一生を殆んどこの井水につき切りだったといっても過言ではない。一例として、竜丘電気組合が新川に発電所を設け、村内一電燈をひいた際、勘一郎は伊賀良井々水を新川へ落して発電に使われるのを嫌い、配電が始っても、自分の家だけはかなりの間ランプを用いていたくらいだった。

（勘）一郎の長男洋吉は、この地方に於けるキリスト教伝導の草分けともいう可き人であるが、その当初は布教に有形無形多くの難しい問題が立ちふさがっていた。勘一郎も初めは息子のすることを認めなかった。然し晩年に至り信仰に入ると、それにつれて多くの人が信者になった事は、勘一郎の指導力と人望の高さを物語っている。

（商）業的な才腕も一面もち中年の頃醤油醸造業を始め、又金融業なども行い、（当時銀行などはなかった）いずれも成功した。

大正七年十一月跡目を長男にゆずり隠居、同八年八月十七日七十四才でこの世を去るまで、理想におぼれず、村政に私生活に、現実と絶えず真剣に取りくみ、ひときは異彩を放った人物である。

婚儀改善

私達が文化生活を営むためには生活の改善にまつところが多い、生活改善と云えば、台所の改善、住居の改善は行なわれているが、婚儀改善については久しい間にわたってその必要が叫ばれて来ましたが、実際にはなか〳〵実現をみなかった。龍丘にも過去三回改善結婚が行なはれ、その必要性がとかれ、ふみきるにも良い時代であるのでこの問題を少し研究してみたい。

みんなの力でもりあげよう

昔の結婚式は盛大であったと年寄りは良く云う。何が盛大であったかと思えば山のような支度品、三日三晩の飲み食い騒ぎを行なったという事である。果してこれが盛大と云えるかどうか知らぬが、現在ではこんな風景は少なくなったように見受けられるが、結婚をする当人はいわば、「サカナ」と云ったような結婚式風景はまだ〳〵多いように見受けられる。これでは誰の為の、何の祝いだか分らなくなってしまう。この疑問は多くの人達がもっていたが、誰も進んで解決しようとする人は出てこなかった、これは農村社会の宿命でもあり最大のガンとも云える、事なかれ主義によるものだと云える。然し時代も進むにつれて新らしい考えをもつ人達が多くなり、結婚改善と云う問題にも真険にとり組み、研究しされ、そしていくつかの形の結婚式が行なわれて来ましたが多くの人達は、その改善結婚の真の意義が理解されていないのではないでしょうか、又曲解されておられる方もおられると思うので従来のどんな点を改善すれば良いかという点に触れてみたいと思います。

二人を中心にする

従来の結婚というものをふりかえってみますといわば新郎と新婦の家と家との結びつきに重点があったように見られます、先ず第一に家柄を尊重せねば、あの家とではどうもつり合いが、などと云ったり、家族（親・兄弟・親戚）で二人をしばりつけていた、然し現代の日本の農村社会の構成からみればある程度家と云う問題にもやむを得ないかも知れないが、根本はそんな事ではあってはいけないと思います。

又、式の最大の行事でもあった、三、三、九度の盃事であるが、これは散々苦労することを承認する事だ等と云われているが、従来盃事と云うものは、主と従のむすびつきにつかわれていた封建時代の最大の名残りであったと思う。封建制打破を口にする人達がこの盃事で結びついていてはおかしくないかと思う。この盃事に代るものとして従来農村では特にルーズであって実際には結婚をしているのだが、子が出来たり、半年もたゝなければ出なかったりした、婚姻届の署名をもりこんだらどうでしようか、この届は結婚すれば直ちに届け出るのが当然の事で、従って形式の三、三、九度に代って婚姻届の署名をし参列者の前で二人が実質ともに夫婦になったことを示すべきと思います。この署名こそ結婚と云うものを真に表す事で、結婚とはあくまでも一人の男と、一人の女がむすばれる事であって他には何もないのではないだろうか、家も、親も兄弟も二人が結ばれると云う事には何の関係もないのである。憲法第二四条で認められるように婚姻は両性の合意であれば成立され、夫婦は同等の権利と義務をもてるように保障されている。この事からみても婚姻届こそ大切ではなかろうか。

これらの問題からいろ〳〵と考えてみると。結婚式というものはあくまでも結婚をする二人を中心にしてこそ、はじめて結婚の真の意味が生まれて来るのではないかと思います。従って従来良く云われる言葉の嫁をもらう、やると云う事も不適当と云う事になるのではないでしょうか。

め
で
と
河井辰雄君
牧野篤

三、三、九度は廃止

調度品は実質主義で

一方披露祝宴の改善であるが、これは冗費をはぶき、時間を節するのがたてまえと思います。過去生活改善の一環として唱えられて来た改善結婚問題があまり進まず、実現出来なかったのは、この経費の削減を第一と考えすぎて来たのではないでしょうか。その為に先に述べたような結婚の真の意義の二人を中心とする点をおろそかにした為に、いろ〳〵と規約ばかり並べたが実か稔らなかったものと思う。早く云えばケチくさいとみられたからではないでしょうか。祝賀会は二人を祝うと云う意味からいけば当然出席者がその経費の負担、すなわち会費制で二人の前途を祝福すべきではないかと思います。今迄は結婚をする家が中心となって、二人が結婚をするからと云って大きな負担をして皆を招待して祝ってもらっていた事からいけば完全に逆となるが結婚をした二人にとっては、一人でも多くの人達が集って自分達の結婚を祝ってくれる方が、高価な記念品を出して祝ってもらうよりも参列者にもこの上にない記念となるのではないでしょうか。この為に二人の関係者が一堂に会してこそ、その意義は上り、必要ではないかと思います。

尚経費削減については何も結婚式当日のみでなく花嫁側に大きな負担となっている調度品の問題がある。今迄も分相応にと云われて来たが、なか〳〵それが実行されてはこなかったようだ。或る人は財産の均等配分をしてもらって行くのだと云っていたが、何もすぐに役にたゝないものや、余分のものまでもって行く必要があるだろうか。それ位ならば、現金や、貯金通帳でももって行った方がどれだけ有意義であるかも知れない。調度品の数を限定をすると云うことは出来ないだろうから、当座どうしても必要なものだけにして、あと必要になればそれは嫁ぎ先で作るのが当り前ではなかろうか。調度品を多く揃えて持参するために、なかには借金までして作って行くと云うのもあるが、これではその後始末をする人ちたが大変である。この調度品の問題も結婚式と合わせて、改善されなければならない大きな課題であると思います。

又酒入れ、結納は出来るだけ簡単にして、出来得ればやめて、宴会は絶対にやめるべきだと思います

婚儀改善については当地区の公民館の社会部が中心となって研究がされるようであるし、駄科分館では過日多数の出席者に依って、この問題について研究した結果、今後大いに推進するために、第一に受け入れ態勢を作るように決ったこのような研究会も青年や、婦人は比較的そのような機会もあるし出来るが、三十才以上の男の方達が比較的そのような時がないから公民館あたりが中心となって行なえば、婚儀改善の普及も比較的楽に出来るような気がする。婚儀改善に第一に考えなければならない施設の点も、多くの人達がこの主旨を理解してくれれば自然に整ってくるものと思います。

この新らしい形の結婚式を実行するには何はともあれ、結婚する二人、当人達の意志こそその実現の第一歩であると思います。又多くの人達はこのような方法は良いがと思うが、どうしても農村社会の古さから抜け出れない人もあるかと思いますが、これは皆で話し合えば解決する問題であるから、大いに研究をし合ってこの古いカラを破るように努力を行ないたいものと思う。

最後に今までのべたことをまとめてみると、

結婚式及びそれに関連するものは結婚当事者生涯の盛儀であるため簡素のうちにも厳粛であり、新生活の門出にふさわしいものでありあくまでも二人を中心にしてなるべく多くの人達が一堂に列して二人の前途を心から祝福する事こそ改善結婚であると思います。そしてこの無駄をはぶいた費用を新らしい生活の為、又村造りのために投資したら一層その実があがると思います。このような結婚式の主旨が多くの人達に理解されて実行されるようになってこそ、はじめて楽しい明るい、住み良い社会が築きあげられる事と確信をしています。

過去竜丘地区で行なわれた改善結婚の主な内容をみると、改善結婚の主旨にそったものでその式の中にはいずれも、三、三九度の盃はやめて婚姻届の署名をしそれを証人（仲人）が皆に成立されたことを報告しています。又披露宴も、二五〇円〜三〇〇円の会費制であり、これで酒、肴とも充分であったようです。尚この結婚式はみなその友人や、親戚、近所の人達が中心となって進めております。この中心になって動くいわゆる実行委員の構成ですが、これはその当事者の身近な人達がなれば良いのではないでしょうか。例えば、組合（隣組）等がなるのも良いと思います。

これら過去に行なわれた改善結婚式もいろ〳〵と話題となった事と思いますが、この形があくまでも完成したものではないと思いますが、それに近い形で行なわれた事は信じられます。皆で研究、話し合い一歩でもこの形に近ずいた改善結婚が出来るようにしたいものと思います。一足とびにしなくても折衷式と云うのも一案かも知れないと思います。地区の皆様の一層の努力と御協力をお願いいします。

龍丘老人学園（仮称）

近く結成

老人グループが全部落に出来それぞれ活動をしていたが去る三月二十四日各部落の代表が支所に集まり、公民館、社協の援助を得て竜丘老人学園として統合し自主的な楽しいふん囲気を作り上げるようと話し合った。

そこで結成総会を四月十七日に学校で少しの会費をもち、お話を聞き演劇サークル上演の演劇を見、お茶係から会計までみんなでやろうと申し合わせた。

第一回婦人研修会開かる

もっと話し合い学習を

二月二一日午前十時より龍丘中学校に於て初の婦人研修会が開かれた。当日の出席は一〇〇名程度で班長以上の役員が主であったが始めての研修会としてはまず〳〵という出席であった。講師として公民館長下平潔、飯田図書館の木下石治両先生があたり、それに加え公民館編集部員十名が助言者として若い者の立場を代表して参加した。当日の日程に従って開会が十時、日程の説明や研修会の方向付け、あと木下先生の婦人文庫についての話しがあり、十時半から各分科会に分れて話し合いが始まった。午前中の分科会のテーマは母親文庫について、午後はテキストを使って新らしい結婚の形についてで一グループ一〇名宛で、十グループに別れ話し合いが行われ、あと全体発表があり木下先生の講評があり一日の研修を終った。

読まれていない母親文庫

母親文庫について話し合いましょうという主題で、〇、どの位読めるか。〇、どうして読めないか。〇、いつ読むか。〇、どんな本を好んで読むか。と云う問題が提起されどのグループも幸せの歌から始まってなごやかな雰囲気のうちにも活発に話し合いが進められた。話し合われた内容を簡単にまとめてみると、主婦の仕事が多いと云う事や家族の人達の理解が少ない。疲れがでゝ読む気になれないと云う事でほとんどの人達が仲々読めないのが実状のようだ。けれども中には読書の時間を作ったり子守をしながら、又寝る時間をさいて読んでいるという熱心な人も幾人かいた。希望意見としてなるべく簡単で解りやすく而も楽しく読める文庫で単行本のような文庫を巡廻して欲しい、又生活のために直結した（例えば、料理、育児、その他）文庫なども参考資料として読んでみたいという人が多かった最後にどうしたら少しでも読めるようになるかという事について話し合った。家族の人達に理解していたゞくという事を否定出来ない大切な事であるが、もっと大切な事は個人々々が本を読んで勉強をしようという熱意である。従って一冊の文庫についても小グループで話し合いをしてみるとか、又カードを作って内容や感想などを書いて廻すという努力が大切であるという結論になった以上の点で母親文庫についての話し合いを終り昼食をとり午後一時より三時迄午前中のまゝの分科会の型で話し合いが進められた。

話し合いのテーマは、結婚、婚礼について話し合いましょう。テキスト「新しい結婚」〇舅の結婚、〇結婚について、〇新しい結婚の一事例、など三つのテキストを使って話し合いが行なわれた。最初に舅の結婚について話し合いが進められた。テキストの内容は父親と息子との二人暮らしのところへ息子が結婚した。すると父親は新夫婦のために別の家を借りて住まわせる事にしたのであるが、それをとりまく親族がさま〴〵な古い考えや新しい意見が出る。それを主材にして描かれている。色々と意見は出たけれども結論としては別居するという事は理想であるが今現在の農村の家族制度の中では経済的にも社会的にも難かしい事であろう。そういって片付けてしまうのでなく、新夫婦のための部屋を作るとか、一家がよく話し合って明るい家庭を築く事が望ましい。次に結婚についてと新しい結婚式の事例について話し合いが進められ新しい時代になって結婚についての考え方と式の改善について生活改善という事がしきりに言われるが一番古い因襲が結婚に根強く結びついているのでこれを改善する事は最も重要であるが仲々難かしいものである。

旧来の結婚は息子と娘との結婚には違いないが、本人同志の気持を中心として考え、それを尊重するというよりは家との結婚という気持が大きく支配していたのが実状であった。けれどもこれからは本人を主体にして全てを考えて行く事が大切だという事がお母さん方よりぼつ〳〵意見が出始めたのはたのもしい。新しい結婚式の型も新時代にふさわしい理想的な型ではあるが必ずしも事例にあるようにしなければならないという事ではなくて無駄を省いて二人を主体にして祝ってやれるような方法を公民館を中心に婦人会でも考え今後に於ても話し合いを数多く持ちたい。という事を話し合った。時間が少なくてカケアシで終ってしまったので思うような話し合いも出来なかった。けれども始めての研修会としては大成功であった。色々と話し合われたことが空論として終るのではなく実践を通じて表われてくる事を期待して婦人研修会のまとめとする。「おことわり」このまとめは一つのグループを抽出してまとめた。

熱心な料理教室

受講者２００人も集る

今年一月から三月迄週一回、公民館が開設した講座〝料理教室〟になんと二〇〇人もの熱心な娘さんやお母さん方が集り、十五のテーブルをかこんで大喜び、非常な盛況ぶりのうちに三月二十六日を最終回として意義ある料理講座が行われた。

講師は広い地域にわたって研究指導されている豊丘村の大原富喜子先生でこれに友の会の生徒さん数人が応援して下さった。

〝健全な身体には健全な精神が宿る〟と云われるように先づ台所をと合理的な食生活を痛感している折、講座の内容もお金をかけずに手軽に出来栄養も充分考えられた農村向の料理とあってみんな真剣だった。又先生は料理技術を教える一方、日頃家庭に於ける主婦の役割の重大さをわかりやすく話し実習には各テーブルを飛びまわり受講者のみんなから大変に親しまれた。

上川路が優勝

去る四月三日、竜丘小学校講堂に於いて竜丘地区分館対抗卓球大会が開かれ、上川路分館が初優勝した。

一位 上川路
二位 桐林
三位 長野原
四位 時又
五位 駄科

陳情書払下げに決定

国道改修委員会生まる

▽……第三回の豊飯国道推進委員会が、去る三月三十日、市役所支所に於て開催され……△
▽……た。その結果、桐林、時又から出された陳情書を白紙に戻すことに決定し、次……△
▽……回の委員会までに各部落の声をまとめて来ることゝした。……△

豊飯国道も駄科地籍に工事も着手し、三五年度には、関島直彦氏前までが工事されることになっているが、それ以後の法線は、時又部落を中心とする現道を通す案と桐林部落を中心とする鉄道西側を通す案とが対立し、どこを通るかが問題とされている。建設事務所長も、三～四月頃迄には法線を決定したいと昨年云っていたが、地区内の統一した世論が出ない限り決定する訳にはいかないらしい。今迄の推進委員会は、事務的な処理だけだったので、これだけではなまぬるいと云うことで、法線もタッチして世論の統一を計り、発展的な推進委員会にいたそうと云うことで、駄科、時又、桐林、十名、長ノ原、上川路、五名を各区より選出し新しい推進委員会が生れた。この委員会の任務については、国道改修について最善の努力をして行くとのこと。第一回の委員会が三月十六日、支所に於て開かれ会長に前島秀夫氏副伊原春男、関島広三氏に決定し各区の意見を次回の委員会迄にまとめてくる事にした。

第二回豊飯国道改修推進委員会が三月二十三日支所に於て開かれたが出席者少数のため委員会は流会となってしまった。第三回、豊飯国道改修推進委員会が、三十名の出席をもって開催された。緊張した空気の中で三つの分科会に分かれて、はらを割っての話し合いがなされた。その結果桐林、時又から出された陳情書をとり下げることが必要であるとの結論に達し、次回の委員会までに各部落へかえって、たがいに納得の行く方法を考えて来ることに決定した。その他の意見としては、飯田、鼎時又線の問題については、国道の路線とにらみ合せて考えること。現段階として三十五年度事業推進のための問題点を考える必要がある。各部落の意見を聞きオルグ活動を行う。委員会として運動促進に努力せねばならない。尚国道改修推進委員は、駄科・関島広三、中平要、北沢小太郎、新井宝、林省三、木下蔵造下平喜三、上川路・塚平睦雄、木下美治、増田好雄、筒井千秋、小林章雄、時又・松村新八、木下郷雄、鈴木　茂、伊原春男、原勇、高木関、伊原悦雄、加藤銀作、増沢銀一、山田佐右ヱ門、長ノ原・今村恵一、今村清、桐林・前島秀夫、原光人、高島良雄、中島好男下平広志、原康次、下平美喜、原丙三、原太二、中島今朝雄。

農協部落懇談会開かる

農協運営の合理化を期するため、当竜丘農協では去る二月八日から十五日まで竜丘地区内十三箇所（駄科六、桐林四、長野原一、時又一、上川路一）に於て、各会場共毎夜七時三十分より懇談会が行なわれた、農協側より執行部及営農技術員が出席された。主な懇談内容は

○支所の合理的運営について
○営農計画について
○貸越制度について等である。

支所の合理的運営について、竜丘自体、小さな村でありながら支所を持つことが根本的に無理であり、今迄以上利用者の皆さんに不便をかけないと云う考えで合理化を考える。現在支所で行なっている製麺事業は食糧事情の好転から極めて需要が少く、又このまゝ続けて行くには保健所の許可が必要なのでその為に要する費用が莫大にかゝるため採算がとれないので廃止し他の農協又は業者に委託する、製麦は支所では行なわず本所へ機械をあげて一箇所で行う。精米、製綿、購売、事務系統は今迄通り行う。これについて懇談会の空気は上川路以外は全面的に賛成だった、その他に希望意見として支所の建物の処分については慎重に考えた方がいゝ、支所の購売は必要ないと云う意見等。尚、二月一杯をもった製麺事業は廃止された。

米の登録四二名が　農協外へ

この三月米の集荷登録替えが行なわれた。登録替えは三年に一度生産者の希望により登録先をかえる事ができるが今回は米の統制徹廃の問題があり、商業資本に対決する農業資本として注目されたが結局飯田米穀へ三一名、南信米穀へ一一名の計四二名で前回の飯田米穀へ登録した二二名に比べて農協外への登録者が増した。しかし今回農協外へ登録した人の多くは今まで予約がなく、実質的に大差がなかったと農協では見ている。

農道各所に出来る

実績上る新農村

新農村建設計画事業の第二年度の事業として、上川路高野、長の原城陸、桐林殿垣外の各農道開設が一応完成した、事業の概要は、高野農道は延長七七七M（受益面積一〇・五八アールで関係者五六人）で工費一三一万五千円で地元負担は一アール当り五三〇〇円。長の原城陸は延長一九一九M（受益面積は四〇四・九アールで関係者一九二人）で工費は九七万九千円でアール当り地元負担は一七〇〇円、桐林殿垣外農道は延長五三M（受益面積一〇一・八アール関係者四五人）で工費七五万六〇〇〇円である。尚三十五年度事業計画については引続き長の原城陸と其の外に塚原古セ原、等が上っており、それぞれ地元で研究して四月いっぱいに計画をうちたてるべく考えている

写真は出来上がった農道

復活された裸祭

今年昭和三十五年より、飯田市時又長石寺の初午まつり（旧暦）には嘗て、大昔の行事であったはだか祭りが復活した。商工青年部四十三名が正午境内にて、御祈祷の後春まだ寒き天竜川に神輿をかついで飛び込み天竜川よりお水を汲み上げて、境内に持ち出しお馬様にその水をかけ、洗馬の儀式をする。この儀式には長石寺住職が先ず先行すること勿論である。馬は本来なれば天竜川に持ち行くのであるが、道の狭いことや馬の重量のあること、又川に洗う損傷も考慮に入れかゝる文化財的のものを保存する意味からも川に持ち出す事をさけるのである。因みにこのお馬は四十貫余もある木製に土をつけてあるのである。お水は天竜橋の青麻（アオソ）神社の間の天竜川の水を汲み上げて行く事に決定している

古儀に依ると六十年に一回というわけだがそれは余りにも長年月だから、以後は毎年はだか祭りの行事として洗馬の儀を行うことにすると言う

兎に角古式洗馬の儀が今年復活したことはいずれにしても好ましい事である。四斗樽に一杯水を入れたのを馬の代りに神輿として、商工青年部全員で町中を練り歩るく。五穀豊穣、農蚕祈願、家内安全、無火災祈願等の祈願をこめる。これは決して余興としては考えていないのである。随って神輿をかつぐ若衆は神酒を戴く程度にて大酒をするという事はさけるのである。洗馬の儀は初午本日午後三時に行われるわけである。今後ますますこのはだか祭りを発展させて商工青年部のみならず、全時又の若衆に呼びかけて出来るだけ多くの参加者を期待するわけだある。

【写真は初午の裸みこし】

随想リレー　７５回

おれは三代目

駄科（農業）　下平　翆

「今までは、人の事だと思いしにおれの番とは、こいつたまげた。」と、一休和尚も云われたそうだがおれも本当にたまげた。

おれはここ数年前から我が家の改造を思い立ち、ある時人に相談した。彼は云った「親骨折って子楽して孫の代には乞食すると諺にもある通り手前は三代目先祖の建てた心も知らず壊ってみろ人はろくなことを云わんぞ」と苦笑し乍らも教えるように、だが人は人何と云おうがおれはおれなりにと覚悟が出来ていたので思切って昨年末から一月一ぱい約二ケ月がかりで作業場と畜舎の移転改造を仕終えたわけだ。

話は昔へ逆戻りするが十数年前のこと働きに来た当時六年生の男の子に質問して見た。「手前大きくなったら何になる?」すると、「おれは何になってもいいが、こんな百姓はいやだ」ときっぱりいった。

こいつ生意気なやつだと思ったがあの子は今では都会で立派な洋服を着て神武だ岩戸景気だと云った調子で生活しておるそうな。

子供の嫌うようなどん百姓はおれだっていやになる、だがおれはいやだと云って気侭になれる身でもない、それから思いに思った揚句三十一年の春に勝手場の隅に井戸を掘った。掘り始めて七日目約八間のところでいよ〳〵土が湿ったそして八日目には岩盤の間から待望の湧水をこの目で見ることが出来たのだ、その時の喜こびはたとえようもなかった。妻は水をコップに汲んで仏壇へ供へただが仕事はそれからだった岩石を割って汲み上げる作業だ、人夫七人で十五日間金額で六万余とは、常々水に恵まれた人達にはちょっと想像もつかぬ事であると思う、これでついこの間まで二百米も先からの水運びはやっと解消した。

思い立ったら気の早いと云われるおれのことだ、その秋大事な牛もすっぱり手放して耕耘機を購入したが部品もろくに揃わずその上おれは運転が下手くそで、ついに妻一作は失敗した。今でこそ笑話にしているがあの時の生活は決して楽ではなかった。

こうしてあれこれと思うがままにやって来たが今になっておれは百姓の尊さに魅力を感じて来た。苦しさとたゝかいながらもそこをどうにか切開いていこうとする意慾には燃えているつもりだ、どんな事も無理はいかんがどうも時代の流れと云うやつは仕方ない。

昨年は別に何の考えもなくテレビを入れたがいゝような悪いような喜こぶ子供を見て喜こぶ親ばかだ。がおれの本当に思う家庭生活は野間清治先生のいわれた、

いつも三月花の頃
死なぬ子三人皆孝行
使ってへらぬ金百両
女房十八わしゃ二十

次のバトンを時又の池村恒吉さんにお願いします、

各種団体役員

▽分館長　駄科　中平　博、長野原　小林　誠、時又　今村尚司、桐林　下平孝之助、上川路　熊谷和志夫、▽教養部長　木下富士、副　下田馨、▽社会部長　牧内清志、副　牧島秋雄、▽産業部長　佐々木春男、副　井口正己、▽体育部長　片桐　寿、副　中島　哲、▽視聴覚部長　関島文男、副　吉川　隆、編集部長　下平恵敝、副　原　佳明、下平正賢

壮年団
▽団長　小林正徳

婦人会
▽会長　代田きそ、副　木下きよ、今村ふき、▽会計　吉川とみゑ、▽記録　笹岡さとゑ、▽支会長　駄科　吉川たけ、副　塩沢かもよ、牧島とよ、長野原　今村よね　副　宮沢さかえ、時又　河原きくゑ、副未定、桐林　中田鈴枝、副　中島あさゑ、高島ことゑ、上川路　長沼さだ、副　今村とみ

消防団
▽分団長　横井保雄、副分団長　木下純夫、警護部長　原　祺三、消防部長　原田典彦

青年会
▽会長　原　功、副　下平正明、副　高島よし

ごめんなんしょ

▲学校のグラウンドの東側の道路特にその南の方、つまりゴミ焼場の下あたりが紙屑や、木の葉で壮観である。

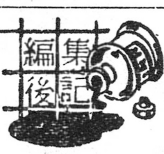
ゴミの所有権がどこにあるかは別として天下の公道、日本帝国の慣習としてはあたり前のことかも知れないが、教育上好ましくない

皇居清掃団あたりで掃除役をかってでたらどんなものでしょうか

▲婦人会役員の改選があった。さて今度はどんなメンバーかなと思ったら、本会はまだ任期があるという木に竹をつぐ様な不思議な話。

〝成長期〟にあるものは毎年大きくなるのはあたり前、どんなに厚くて丈夫な服でも年を経ると型が古くなるし小さくもなる。

どうもよけいなお節介で失礼。



編集後記

早や三月も終りとなり、桜もほころび始め、気分的にも何となしにうき〳〵とした陽気となりましたが、編集子一同はお花見の宴をたのしみにしながら一生懸命に作成しました、今月号は、二、三月の統一号です皆様も楽しいお花見をどうぞ。今年度より、下平道啓、下平衛、今村明人が新らたに部員となった

あの人＝この人

永遠に幸あれ

吉川　竜男	桐林へ
金井　律子	群馬県沼田市より
柿木　邦男	上伊那郡高遠町へ
久保田恭代	時又より
鈴木　哲郎	時又へ
平田　碩代	名古屋市より
片桐　裕	豊丘村神稲へ
小林　春子	長野原より
佐藤　斉	下条村へ
伊藤　弘子	時又より
前沢　邦美	竜江村へ
林　喜久美	桐林より
倉田　治	鼎町へ
金子　良子	上川路より
久保田保久	伊賀良へ
吉川　礼子	駄科より
平沢　静夫	東京都港区へ
鈴木　幸恵	時又より
金沢　孝文	山本へ
林　善子	桐林より
下田　明	時又へ
岡田　薫子	上郷村より
伊原　八郎	時又へ
小松　元美	伊那市より
木下　典夫	喬木村へ
中村　悦	長野原より
水上　豊	東京へ
林　栄子	駄科より
宮内　正夫	鼎町へ
中島美津子	桐林より
寺沢　正治	松川町へ
下井田幸保	長野原より
河井　辰雄	時又へ
牧野　篤子	鼎町より
原　隆人	桐林より
平沢　ふじ	名古屋へ
下平　博邦	駄科へ
水野　静	名古屋市中区より
久保田善次	駄科へ
宮沢賀根子	平谷村より
下平　穎治	桐林へ
松本　和子	上伊那郡箕輪町より
塚平　弘人	上川路へ
金丸ヨシヲ	福井県鯖江市より
坂井田澄夫	愛知県一宮市へ
伊原　淑恵	時又より
中田　勇	桐林へ
葛谷　富子	市内小伝馬町より
小林　善明	阿南町富草へ
関島　春子	駄科より
月岡　準美	神戸市葺合区へ
小林　ふき	上川路より
小室　実雄	上川路へ
原　朝子	喬木村より
下平　恵敝	桐林へ
矢沢喜久子	市内下殿岡より
橋爪　明弘	下久堅へ
塩沢　美苗	桐林より
麦島　正明	市内東和町へ
久保田静子	桐林より
倉沢　恒雄	桐林より
森下　芳子	松尾へ

伸びよ健やかに

氏名	父名	性	部落
中島　治子	勘治	女	駄科
岩崎　伸二	伝一	男	駄科
桐生　賢蔵	蔵雄	男	桐林
久保田　誠	達男	男	駄科
今村みどり	東一郎	女	時又
沢柳　利幸	昇	男	駄科
宮島　和恵	栄一	女	時又
中島　鈴枝	一成	女	時又
下平真砂子	宗也	女	時又
伊藤　正	隆直	男	駄科
塩沢　源一	源夫	男	桐林
下平　豊	昭	男	駄科
伊藤　宏明	利夫	男	駄科
森田　信一	繁一	男	駄科
関島　直美	政彦	男	駄科
吉沢　徹夫	道夫	男	時又
関島ゆかり	重	女	駄科
橋爪　和彦	和夫	男	時又
久保田　誠	豊一	男	桐林
上松　一成	寛三	男	駄科
吉川　幸子	恒雄	女	桐林
小池　恭治	今朝男	男	長野原
久保田和良	照志	男	駄科
杉本　公成	和雄	男	上川路
小林　敏光	繁	男	時又
大沢　勉	茂雄	男	駄科
沖田のり子	喜久男	女	時又
橋爪　達也	義求	男	時又
中島　明美	一幸	女	桐林
熊谷　和彦	豊	男	駄科
岡村　広美	広男	女	桐林
下平　武彦	俊郎	男	桐林
市瀬　時夫	啓三	男	時又
島岡みどり	喜久雄	女	時又
加藤　卓司	卓彦	男	時又
原　礼司	頌美	男	時又

御冥福を祈る

下平　翁一	七二	男	時又
下平ふみゑ	三八	女	長野原
沖田せきの	七九	女	時又
久保田金蔵	六〇	男	駄科
熊谷　寿	六八	男	駄科
岡村　隆哉	五八	男	桐林
熊谷　安男	六九	男	駄科
平沢　利夫	六二	男	時又
今村　すゑ	七一	女	長野原
今村きちよ	八五	女	桐林
中島喜太郎	八四	男	桐林
小林　か子	七九	女	桐林